

コロナ感染「第9波」の対応を



65才以上のワクチン接種を促進

質問 岩手県は9月上旬、1医療機関当たり患者数が35・24で全国1位だった。以前のように感染情報がなく

市民の不安も広がっている。科学的で正確な情報発信や緊急メッセージはどうか。

答弁 8月に入り、「第9波」

と捉えている。基本的な感染対策の徹底が重要であり、緊急メッセージではなく、区長文書や市広報等呼びかける。

質問 検査体制の強化、ワクチン接種等の対策はどうか。

答弁 5類となって通常診療に移行している。65歳以上の方へ接種券を発送しワクチン接種を促進する。

猛暑の中の見守りは

質問 猛暑で高齢者は危険な日々が続いたが、見守り事業の取り組み状況はどうか。

答弁 配食サービスは夕食を自宅まで配達し、健康状態や安否確認を行っている。介護サービス施設では、こまめな水分・塩分の補給、換気の徹底など、熱中症予防に注意を促した。また、「介護予防教室（いきいきライブ）」として、



米崎小体育館

市内12地区で予定し、上半期は「お出かけツアー」を企画し、8地区で156人が参加した。各地区老人クラブ等の誘い合いの参加が多く、住民相互の見守りや支え合いができていく。



大坪 涼子
(日本共産党)

市内人手不足の今後は



2040年には労働力不足に

質問 問題となっている空き家に関してはどこに相談すればいいのか。

答弁 担当は建設課。今後

設置される法定協議会にて特定空き家を認定していく。

質問 策定中の空き家対策計画には、持ち主不明の空き

家を市が代わりに管理する制度について盛り込むのか。

答弁 「財産管理人の選任の申し立て」の趣旨は盛り込む。

質問 空き家管理する団体の公的な位置付けは。

答弁 法改正の目玉が「空き家等管理活用支援法人」だ。複数の事業者が付与、多様な

将来的な地元就職、事業所における生産性の向上、効率化、省力化で、魅力ある職場づくりに取り組んでもらう。

質問 市長公約である新規雇用1000人の定義は。

答弁 市民が申し込みたいくなる仕事で1000人を指す。

質問 雇用の定義は様々な



深刻化する人手不足



木村 聡
(とうほく未来創生)

事業者で成るチーム付与など検討している。

質問 本市の人手不足の状況をどう分析するか。

答弁 現状では雇用のミスマッチが起きている。2040年には少子高齢化により労働力不足がますます進行する。

質問 人手不足解消策は。

答弁 長期的には若年層の

ため統一基準が重要だ。従来定義（ハローワーク経由で就職した人数）に合わせては。

答弁 既存計画に捉われない新しい仕事を、達成したかどうかは市民に判断いただく。

質問 では市民が判断するために何を示すのか。

答弁 外部の人の知恵も借

りながらしっかりと取り組む。

質問 公約を掲げた以上は達成基準は重要だ。いつまでに定めるか示して欲しい。

答弁 数字ありきではなく市民ニーズを踏まえ考える。

処理水海洋放出の中断を



海洋放出以外の方法を要望

質問 政府と東電は8月25日、原発事故汚染水（アルプス処理水）海洋放出を強行した。私たち被災地への仕打ち

であり、「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」という約束を破った。このことへの見解はどうか。

答弁 本市の水産業関係者へ悪影響が及ぶ可能性があることから、経産省等に海洋放出に強く反対と、海洋放出以外の処分方法の真剣な検討を求めてきた。実際に悪影響が生じた場合は国の責任で迅速な対策を強く求めていく。

必要だ。今後の戦略と工程は具体的に示せないが、サーモン養殖のような事業を積み上げていく。

質問 8月23日の記者懇談会で市長は、「私の公約は、公約をつくる際に助言していただいた方々と私の考えで対応していく」と話しているが、総合計画など市の計画とは別の流れで進めるのか。

答弁 8月時点では公約を作る時に伺った方々の助言をもとに構想を練っていた段階だ。その後、状況等の変化により、農林水産業振興や雇用創出のために今回政策アドバイザーを委嘱し、更に、幅広い方々の意見を聞きながら

地元小学校への就学支援を

質問 矢作小学校区には児童クラブがなく、地元就学ができない現状にあるが、市の支援はどうか。

答弁 児童クラブの立ち上げか、近隣の児童クラブへの送迎などを検討している。



藤倉 泰治
(日本共産党)

質問 市水産業振興計画の水揚額目標は「年1%程度19億円余」という厳しい現状だ。今年度策定予定の計画目標と「4年間で生産額倍増」への戦略と工程はどうか。

答弁 漁場の養殖スペースに限りがあり、水揚量・額が目録値は現実的な数値設定が

必要だ。今後の戦略と工程は具体的に示せないが、サーモン養殖のような事業を積み上げていく。

質問 8月23日の記者懇談会で市長は、「私の公約は、公約をつくる際に助言していただいた方々と私の考えで対応していく」と話しているが、総合計画など市の計画とは別の流れで進めるのか。

答弁 8月時点では公約を作る時に伺った方々の助言をもとに構想を練っていた段階だ。その後、状況等の変化により、農林水産業振興や雇用創出のために今回政策アドバイザーを委嘱し、更に、幅広い方々の意見を聞きながら



矢作小・生活学習発表会